令和7年度　群馬県小学校中学校教育研究会

小学校家庭科部会県大会(太田地区大会)について

Ⅰ はじめに

太田市小学校家庭科主任会では、県の小学校家庭科部会の取組を受け、「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成」を目標として、研修に取り組んできた。市家庭科主任会の中に、毎年、授業公開・授業研究会を位置付け、これまでの研修成果を活用するとともに、小学校における家庭科教育の喫緊の課題解決に資するべく、研鑽している。

今年度、小学校家庭科部会県大会を太田地区が担当するにあたり、この太田市家庭科主任会としての取組を県大会とタイアップさせ実施した。令和６年度授業公開校（太田市立毛里田小学校）での指導案づくりの段階から、太田市教委からの指導と併せ、東部教育事務所　松島めぐみ指導主事から指導助言をいただき、本年度、県大会を冠して太田市立中央小学校を会場校に開催が実現したものである。

Ⅱ 小学校家庭科部会県大会(太田地区大会)

日　時：令和７年１１月２８日（金）
　　授業公開　　13：55～14：40
　　授業研究会　14：50～16：30
会　場：太田市立中央小学校
授業者：大関　美貴　教諭
指導助言：東部教育事務所教科指導係
　　松島 めぐみ 指導主事
　　太田市教育委員会指導係
　　金澤 英明 指導主事
参加者：太田市内小学校家庭科主任および家庭科教育に関心ある小学校教職員等

Ⅲ 授業実践

太田市立中央小学校において上記Ⅱのとおり実践された授業の詳細については家庭科学習指導案を別に公開する。授業者により一旦構築された指導プランを、中央小学校校内研修において検討を重ねるとともに、太田市教育委員会をとおして、県教委（東部教育事務所）家庭科教育担当指導主事からの直接指導を継続して受け、県大会当日を迎えるまでに指導方針、指導方法の具体化・適正化に向けたブラッシュアップが行われた。家庭科の研究授業公開は、全県としては、近年その数が減少している。今回、その貴重な研究授業の提供を受け、参会者は多くの学びを得ることができた。

Ⅳ 授業研究会

授業者のリフレクション、参会者のグループワーク（ＫＪ法）により活発な協議がなされた。

【指導助言より】

(1)成果として

○「栄養ﾊﾞﾗﾝｽ確認シート」の活用

授業者の前任校（館林市）で使用されていた教材を太田市での発表に適用していた。【中里真一先生（群大准教授）が開発。栄養計算に基づくツール。児童が計算せずにポイントを数えるだけで視覚的にバランスの確認が可能】授業者が教材の価値を理解し、効果的に活用していた点が評価できる。中里准教授に使用許可をいただいた。今後、水平展開していくと良い。

○学習計画の板書提示

県の授業改善プロジェクト３年目の取組としても大切にしたいところ。題材の課題設定と学習計画立案を１時間目に実施する。学習指導要領に示されている「学習過程を児童と共有すること」に繋がる。学習計画を適切に提示し、指導者が要所で想起を促したことで、児童が見通しをもって学習に取り組む環境構築となった。

○学習形態の自己決定

当初の詳細な指導案から、児童の主体性を重視した形に変更がなされた。グループ活動の形態（自ら相談相手を求め児童がフリーで移動：似た食材の組み合わせ・バランスシートの相似等を視点とする）を児童に委ね、自己決定させた。授業者が、実態把握のうえで「（あの子たちなら）できる」と判断している点が良い。授業の中でも、学級の中に自然な交流が生まれていた。

○教育ビジョンとの関連・群馬県教育振興基本計画との整合性

非認知能力、ウェルビーイング、エージェンシーの育成「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」という目標は、家庭科の本来の目標である「よりよい生活を作る」との親和性がある。時代が家庭科の価値に注目している現状にあることを理解して指導を進めたい。

教師の役割は伴走者であり、本授業ではそれが実現していた。困っている児童に過不足なく声かけがあった。（児童に）させる授業から（児童が）する授業への変換がなされた。

○現代的な課題への対応

AI・タブレット活用時代における家庭科の意義の理解、食生活を通じた健康・環境・SDGs への意識向上等を図っていくためにも、家庭科の授業の質の向上が期待される。本題材は今後、家庭での調理の実践へと繋がる。よりよい「献立」への評価・改善の視点を児童がもつことにねらいが焦点化されていることに意義がある。

○「指導者が改めて意識すべきこと」：大関教諭の授業づくりにおける協議で大切にした点

・授業改善のポイントを明確にする。
（知識技能中心の授業と思考・判断・表現中心の授業での違いを明確にする）
・評価と指導の一体化を意識する。
・学習指導要領の評価項目を活用した効率的な指導案作成に努める。
・働き方改革の観点からの既存資料の有効活用
（栄養ﾊﾞﾗﾝｽ確認シート等の既存教材の活用）
・育成したい能力と指導計画の明確な関連付け
・まとめと振り返りの工夫
本時の学習内容や手立てに応じてまとめの仕方を工夫する。振り返りでは「（児童自身が）何がわかって何がわからなくて、次に何をしたいか」を重視する。

(2)今後の課題として

〈継続的な授業改善のための取組〉

・題材計画立案の重要性の再確認
・児童の主体性を引き出す指導方法の模索
・学習指導要領の目標と評価の明確化
・代表授業や研修会への積極的な参加呼びかけ
・県の授業改善プロジェクト資料等活用

Ⅴ まとめ

令和７年度 群馬県小学校中学校教育研究会小学校家庭科部会県大会を開催するにあたり、群馬県教育委員会、太田市教育委員会からの多大なるご指導ご助言をいただいた。また、教育研究会小学校家庭科部会より昨年度受給した研究費により太田市主任会で関連書籍を購入、全校回覧により活用し、次年度授業校へと引き継いだ。会場校をはじめ関係諸氏のご尽力に感謝するとともに、太田市家庭科主任会として、よりよい家庭科授業づくりのために、引き続き研鑽することを表明し、まとめとするものである。